

3章 冷戦と第三世界の独立Ⅲ

問題

【1】

解答

問1 (1) イ (2) イ (3) エ (4) ア 問2 ウ 問3 オ 問4 エ
問5 ウ 問6 エ 問7 ア 問8 エ 問9 イ 問10 オ 問11 オ

解説

東西ドイツの分断から統一までの過程を題材としながら、現代史全般から出題する問題。基本的事項が多いため、8割以上は正答しておきたい。

問1 (1)・(3) 基本問題。

(2) 1958年、ヨーロッパ経済共同体（EEC）と同時に成立したのはヨーロッパ原子力共同体（EURATOM）である。選択肢の中に紛らわしいものもないので即答できるだろう。

(4) 全欧安保協力会議（1975）は、米ソ両国を含めた35カ国の首脳が参加し、ヘルシンキで開催された。

問2 経済協力開発機構（OECD）は、マーシャル＝プランの受け入れ機関として1948年に創設されたヨーロッパ経済協力機構（OEEC）の後身として61年に発足したものであり、国際連合の専門機関ではない。貿易自由化による加盟国の経済的発展と発展途上国援助に力を注いでいる。

問3 オーデル＝ナイセ線は、オーデル川とその支流ナイセ川で形成される国境線である。このラインをドイツとポーランドの国境とすることは1945年のポツダム協定で定められたが、形式的にはその最終決定は後日に委ねられ、70年にドイツ連邦共和国とポーランドの間でオーデル＝ナイセ線を正式な国境線とする国交正常化条約が締結された。

問4 基本問題。朝鮮を南北に分断する北緯38度線、ヴェトナムを南北に分断する北緯17度線はそれぞれしっかりと覚えておくこと。今回のように分断ラインを1度刻みで選択させる形式も多い。

問5 基本問題。紛らわしい選択肢もない。冷戦期に世界各地で展開された安全保障機構については、それぞれの名称・略称、加盟国、内容について確認しておきたい。また、冷戦が終了した現代においては、それぞれの地域経済統合をしっかりとチェックしておこう。

問6 基本問題。なお、イのコメコン（東欧経済相互援助会議）とウのマーシャル＝プランについては、冷戦におけるそれぞれの位置付けを復習しておこう。

問7 拡大ECについては、1973年にイギリス・アイルランド・デンマーク、81年にギリシア、86年にスペイン・ポルトガルが加盟という3段階に分けて覚えておくこと。

問8 エの“四つの現代化”とは、プロレタリア文化大革命の後、鄧小平が中心となって進めた国防・工業・農業・科学技術の現代化政策なので、「社会」が誤りとなる。“四つの現代化”についてはその内容まで問われるので、しっかりと覚えておくこと。

問9 やや難。1976年に始まったキャラハン労働党内閣は79年の総選挙で敗れ、代わってサッチャー保守党内閣が成立した。

問10 1987年の選挙に当選し、翌88年に大韓民国（韓国）大統領に就任した盧泰愚は、90年にソ連と国交を樹立し、続いて翌91年には朝鮮民主主義人民共和国（北朝鮮）と同時に国連に加盟した。

問11 基本問題。チェルネンコの病死の後を受け、ゴルバチョフは1985年にソ連共産党の書記長となった。国内政策としてグラスノスチ（情報公開）とペレストロイカ（改革）を進め、対外的には中距離核戦力（INF）全廃条約の調印（1987）、アフガニスタン撤兵（1988）など合衆国との協調政策を採り、ついに1989年のマルタ会談で合衆国のブッシュ大統領とともに冷戦の終結を宣言した。チェルノブイリ原子力発電所事故（1986）もゴルバチョフ政権時代の出来事である。オの“プラハの春”は1968年のチェコスロヴァキア自由化の一連の動きをさす。ノヴォトニー大統領は失脚し、代わって大統領となったドプチェクが自由化・民主化を進めた。しかしこれに危惧を抱いたソ連は同年8月、東ヨーロッパ4カ国とともに軍事介入し、チェコスロヴァキアを屈伏させた。この時の東ヨーロッパ4カ国とは東ドイツ・ポーランド・ハンガリー・ブルガリアである。

【2】

解答

A (イ) c (ロ) c (ハ) d (ニ) a (ホ) d (ヘ) a (ト) e (チ) a

B あ ノルマンディー い バドリオ う ニュルンベルク え ナイジェリア

C 1 b 2 アイゼンハウアー

3 本国と自治領とは対等で国王に対する共通の忠誠で結ばれる。(28字)

4 1956年、ナセルのスエズ運河国有化宣言に対し、イスラエル・イギリス・フランス軍がエジプトに侵入したが、国際世論の批判により撤退、アラブ民族主義が勝利した。

(76字)

5 ① b ② d ③ a ④ c

解説

第二次世界大戦から現代にかけてのイギリス史の大問である。細かい年代を暗記していることがこの問題を解く前提条件となっている。記憶の曖昧な年代はこの際に再確認しておくこと。

A (イ) やや難。ダンケルクはフランス北部の港湾都市。問題文にあるように第二次世界大戦の初期、英仏連合軍はドイツ軍に追い詰められ、1940年5～6月にダンケルクから奇跡的に脱出した。

(ロ) 「1943年」という年代と「第二戦線の実行を決定」というキーワードからテヘラン会談が正解。1943年にはカイロ会談も開催されているが、これはフランクリン＝ローズヴェルト・チャーチル・蒋介石の三者間における対日戦に関する会談であった。

(ハ) イギリスはヨーロッパ経済共同体（EEC）に対抗してヨーロッパ自由貿易連合（EFTA）を結成した。これにはスウェーデン・ノルウェー・デンマーク・オーストリア・スイス・ポルトガルが加盟した。

- (ニ) ここでは1973年にECに加盟したのはイギリス・デンマーク・アイルランドである。
- (ホ) 難問。年代順に並べると、aのアトリーは1945～51年の労働党内閣、bのイーデンは1955～57年の保守党内閣、eのマクミランは1957～63年の保守党内閣、cのウィルソンは1964～70年、74～76年の労働党内閣、dのヒースは1970～74年の保守党内閣の首相である。ここでは1973年の首相を答えるので、dのヒースが正解となる。
- (ヘ) ヨルダンの独立が1946年、インド・パキスタンの分離独立が47年、ビルマ（現ミャンマー）とセイロン（現スリランカ）の独立が48年の出来事である。このうちヨルダンとビルマが完全独立で、他の3国はイギリス連邦内の自治領として独立している。この時期のイギリス首相はアトリーである。
- (ト) 空欄えに当てはまる「ニジェールの南隣、ギニア湾に面する」国はナイジェリアである。ナイジェリアはイギリス支配下から1960年にイギリス連邦の一員として独立している。これはマクミラン首相の時代である。
- (チ) サッチャー首相の時代のフォークランド戦争も頻出事項である。フォークランド諸島はイギリス領で、アルゼンチンではマルビナス諸島と呼ばれる。1982年にアルゼンチンが領有権を主張して軍事占領を強行したが、サッチャーが大部隊を派遣したことから、アルゼンチンはイギリス軍の上陸から1カ月足らずで降伏した。この際に合衆国はイギリスを支援したが、これは、アメリカ州の1国に対する攻撃をアメリカ州全体への攻撃と見なすリオ協定（米州共同防衛条約；1947）に違反するとして、中南米諸国から強く批判された。
- B あ 基本事項。1944年6月、連合国軍はノルマンディー上陸作戦を成功させた。これを指揮したのは、のちの1953年に合衆国大統領に就任するアイゼンハワーである。
- い 連合国軍は1943年7月にイタリア半島の南に位置するシチリア島に上陸した。連合国軍の接近に恐れをなしたイタリア国王によりムッソリーニは幽閉され、同月にバドリオ政権が成立した。同年9月に連合国軍がイタリア本土に上陸すると、イタリアは無条件降伏した。
- う 第二次世界大戦後、連合国によって敗戦国の指導者が裁かれた国際軍事裁判は、ドイツではニュルンベルクで、日本では東京で開かれた。
- え A(ト)の解説を参照すること。
- C 1 やや細かい。大西洋憲章は第二次世界大戦中の1941年8月にフランクリン＝ローズヴェルトとチャーチルが発表したものである。ドイツのソ連侵入（独ソ戦争の開始）は1941年6月、日本の真珠湾攻撃は41年12月であるから、選択肢bが正解となる。
- 2 Bあの解説を参照のこと。
- 3 ウェストミンスター憲章（1931）はイギリス自治領の法律上の完全な自主権および王冠への忠誠を規定したものである。その背景には世界恐慌を乗り切るためのスターリング＝ブロック形成への自治領の懐柔という目的があったことに注目したい。なお、これによりイギリス連邦が成立する。
- 4 スエズ出兵すなわち第2次中東戦争（1956～57）について、その経過と結果を簡潔明瞭にまとめる問題。経過としては、ナセルによるスエズ運河国有化宣言、およびこれに対するイスラエル・イギリス・フランス軍の侵入を、結果としては（米ソ両国を含む）国際世論の圧力で侵入軍が撤退したこと、およびアラブ民族主義が高まったことを述べるとよい。
- 5 インド・パキスタンの分離独立（1947）から、各事項の時代経過を追っていけばよい。シャ

ストリはインド共和国の第2代首相で在任期間は1964～66年であるから、この時期のカシミール戦争とは第2次インド＝パキスタン戦争（1965）をさしている。したがってaは1965年。bはパキスタン建国時の出来事であるから1947年。cは第3次インド＝パキスタン戦争の結果で1971年。dは1948年の出来事である。

【3】

解答

問1 ユーゴスラヴィア 問2 バグダード条約機構（中東条約機構） 問3 ベルリン
問4 b 問5 d 問6 c 問7 e 問8 c 問9 b 問10 b

解説

第三世界に絡めて主に政治面から合衆国やソ連にも言及する問題。記述問題・記号選択問題ともに基本的な内容で構成されているので、取りこぼしなく正解しておきたい。

問1 ユーゴスラヴィアのティトーは、東ヨーロッパ社会主義圏に絶大な支配力を振り始め、ソ連に対して対等な立場を求めた。また、合衆国によるヨーロッパ経済支援策であるマーシャル＝プランの受け入れを表明したことなどもあって、ソ連のスターリンとの対立が強まり、1948年にコミンフォルムから除名された。

問2 バグダード条約機構（中東条約機構／METO）は、1955年にイギリス・パキスタン・トルコ・イラン・イラクで結成された反共軍事同盟である。1958年のイラク革命を契機としてイラクが脱退したために解体し、残った4国で59年に組織を再編して中央条約機構（CENTO）とした。

問3 ビスマルクが主宰した1884～85年のベルリン会議では、アフリカが無主の土地と見なされ、アフリカの土地に対しては先占権が認められた。このため、アフリカ分割が加速した。

問4 ダレスは、1953年からアイゼンハウアー政権の国務長官を務め、“巻き返し政策”を提唱した。

問5 年代順に並べると、⑤米州機構（1948）→①北大西洋条約機構（1949）→③中ソ友好同盟相互援助条約（1950）→②太平洋安全保障条約（1951）→④東南アジア条約機構（1954）→⑥ワルシャワ条約機構（1955）の順となる。

問6 選択肢cが誤り。平和五原則は、1954年にインドのネルーと中国の周恩来の間で発表されたもので、その内容は領土保全と主権の尊重、相互不侵略、内政不干渉、平等互惠、平和共存である。翌1955年のアジア＝アフリカ会議では、平和共存や反植民地主義を打ち出した平和十原則が発表された。

問7 スエズ戦争（第2次中東戦争）の勃発は1956年の出来事である。選択肢a～dはいずれも1956年であるが、eのイラク革命は58年である。イラク革命ではカセムが王政を廃して、共和国を樹立した（問2の解説も参照すること）。

問8・問9 ガーナはイギリスが植民地とした地域なので、選択肢cは誤り。ガーナは1957年、エンクルマを指導者としてサハラ以南のブラック＝アフリカで最初の独立を果たした。ガーナ独立はアフリカ諸国の独立運動を刺激し、“アフリカの年”と呼ばれる1960年には17カ国が独立することとなる。

問 10 コンゴの旧宗主国はベルギーであるので、選択肢 b は誤り。

【4】

解答

問 1 ④ 問 2 ① 問 3 ④ 問 4 ⑤ 問 5 ② 問 6 ① 問 7 ⑤
問 8 ① 問 9 ⑤ 問 10 ③ 問 11 ② 問 12 ④ 問 13 ④ 問 14 ①
問 15 ② 問 16 ① 問 17 ③ 問 18 ④

解説

アフリカ独立に関する問題。基本問題が多いがところどころでやや難しい問題もある。下記の解説を参照し、アフリカ史に関する知識をより確実にしてもらいたい。またアフリカについては問 8 のような地図問題が非常に多い。植民地化から独立まで地図の確認も必ずしておこう。

- 問 1 “アフリカの年”と呼ばれる 1960 年に独立したアフリカ諸国は次の 17 カ国である。ソマリア・モーリタニア・チャド・ニジェール・マリ・セネガル・コートジボワール・オートボルタ（現ブルキナファソ）・トーゴ・ダホメ（現ベナン）・ナイジェリア・カメルーン・中央アフリカ・コンゴ（現コンゴ民主共和国）・コンゴ（現コンゴ共和国）・ガボン・マダガスカル。国名を問われることはほとんどないが、一応確認はしておくこと。
- 問 2 合衆国大統領のニクソンは、かつてアイゼンハウアー（第 34 代／共和党；任 1953～61）の副大統領を務めた。ケネディ（第 35 代／民主党；任 1961～63）に選挙で敗れるが、ジョンソン（第 36 代／民主党；任 1963～69）の後、大統領（第 37 代／共和党；任 1969～74）に就任した。1971 年のドル＝ショック、72 年の訪中、72 年のウォーターゲート事件、73 年のヴェトナム和平協定など、戦後の合衆国史でも有数の重要事項が該当する大統領である。
- 問 3 やや難問。エンクルマはイギリスからの独立を指導し、ブラック＝アフリカ最初の独立国ガーナの初代大統領となった。1958 年にアフリカ人民会議を開催するなどアフリカ統一運動を推進した。国内では社会主義政策を実行したが、1966 年の軍事クーデタで失脚した。
- 問 4 1963 年のアフリカ諸国首脳会議で成立したアフリカ統一機構（OAU）は、91 年のアフリカ経済共同体を経て、2002 年にアフリカ連合（AU）へと発展した。なお、①の OAS は米州機構、②の OAPEC はアラブ石油輸出機構、③の ASEAN は東南アジア諸国連合の略称である。これらの略称はすべて覚えておきたい。
- 問 5 やや難問。1963 年に採択されたアフリカ統一機構憲章では、アフリカ諸国の統一と連帯の促進、生活水準の向上、植民地主義の一扫などが唱えられた。核兵器の廃絶は、1955 年のアジア＝アフリカ会議で発表された平和十原則にも含まれていないことは覚えておくとよいだろう。
- 問 6 アフリカ統一機構の本部が置かれたアジズアババは、エチオピアの首都である。この機会に他の選択肢の国々の首都も見よう。②のガーナの首都はアクラ、③のナイジェリアの首都はアブジャ、④のアルジェリアの首都はアルジェ、⑤のケニアの首都はナイロビである。
- 問 7 基本問題。1954 年に結成された民族解放戦線（FLN）がフランスとのアルジェリア戦争を戦い、1958 年にアルジェリア臨時政府を樹立した。フランスのド＝ゴール内閣が第五

共和国憲法を成立させ、1962年にエヴィアン協定で独立を承認すると、ベン＝ベラを初代大統領にアルジェリアが独立した。①のI N Fは中距離核戦力、②のP L Oはパレスチナ解放機構、③のF A Oは国連食糧農業機関、④のP R Iはメキシコの制度革命党の略称である。

問8 北アフリカ一帯はエジプトやマグリブ地方の話題と関連して出題されることがある。この機会に地図帳を開き確認しておこう。

問9 やや難問。スーダンの独立は1956年である。①のセネガルと②のソマリアの独立は1960年、③のリビアの独立は1951年である。④のリベリアは第一次世界大戦前から独立を保持した。なお、スーダンはファショダ事件（1898）と関連して英仏両国のアフリカ政策でも取り上げられるので、資料集や地図帳などでも確認しておこう。

問10 アルジェリア出兵（1830）時の国王シャルル10世はもちろんのこと、その時のポリニャック内閣まで確認しておきたい。アルジェリア出兵は、シャルル10世の反動政治に対する国民の不満をそらすために行われたが、直後に七月革命が起こった。七月王政のルイ＝フィリップ（位1830～48）治下の1842年、フランスはアルジェリアを直轄領とした。①のシャルル8世（位1483～98）は百年戦争後のフランスで中央集権化を進めた王、②のシャルル9世（位1560～74）はユグノー戦争（1562～98）勃発時の国王、④のルイ16世（位1774～92）はフランス革命で処刑された王である。⑤のルイ18世（位1814～24）はブルボン復古王政の王であり、ルイ16世の弟、シャルル10世の兄に当たる。

問11 アルジェリア戦争を終わらせたのは1962年のエヴィアン協定である（問7の解説も参照すること）。①のパリ協定は1954年に西ドイツが主権を回復した協定である。③のリオ協定は米州共同防衛条約のことで、1947年に締結された。④のヤルタ協定は1945年、第二次世界大戦末期のヤルタ会談における協定。⑤のハーグ協定はオランダが国連の仲介でインドネシアの独立を認めたもので、1949年に締結された。

問12 フランスのド＝ゴール大統領（任1959～69）は“フランスの栄光”をスローガンに对外政策（独自路線）を展開した。その具体例として、サハラ砂漠での原爆実験成功（1960）、部分的核実験停止条約への不参加（1963）、アルジェリア独立の承認（エヴィアン協定；1962）、イギリスのE E C加盟阻止（1963；イギリス首相は保守党のマクミラン）、中華人民共和国の承認（1964）、北大西洋条約機構（N A T O）の軍事機構から脱退（1966；これによりN A T O本部がパリからブリュッセルに移転）、E C発足への関与（1967）などが挙げられる。なお、ド＝ゴール退陣後の1973年、イギリスはアイルランド・デンマークとともにE Cに加盟し、これが拡大E Cの始まりとなる。

問13 イギリスが植民地に自治権を与えた順序としてカナダ（1867）・オーストラリア（1901）・ニュージーランド（1907）・南アフリカ連邦（1910）を押さえない。南アフリカ連邦とはケープ・トランスヴァール・オレンジ・ナタールの4州をさす。

問14 アパルトヘイト諸法として、公共施設分離利用法、先住民土地法、集団地域法、人口登録法などがある。その他、雑婚禁止法では人種の異なる男女の結婚が禁止された。

問15 アフリカ民族会議の略称はA N Cである。①のA F Lはアメリカ労働総同盟、③のS A L Tは戦略兵器制限交渉、④のA R Fはアセアン地域フォーラム、⑤のI R Aはアイルランド共和国軍の略称。

問16 マクドナルドは労働党初の首相である。彼は労働党で2回（任1924、29～31）、挙国

一致内閣（任 1931～35）と合わせて3回組閣した。なお、他の選択肢もイギリス首相を務めた人物で②のチャーチル（任 1940～45, 51～55）、アトリー（任 1945～51）、ロイド＝ジョージ（任 1916～22）、ネヴィル＝チェンバレン（任 1937～40）となる。

問 17 デクラーク大統領（任 1989～94）はアパルトヘイト諸法の撤廃を行い、その後のマンデラ大統領時代には副大統領（任 1994～96）を務めた。1993年、マンデラとともにノーベル平和賞を受賞している。

問 18 ④が誤り。マンデラが受賞したのは、ノーベル文学賞ではなくノーベル平和賞である。元政治家でノーベル文学賞を受賞したことで著名な人物としては、イギリスのチャーチルが挙げられる。マンデラは黒人がアパルトヘイトに対抗するために1912年に結成したアフリカ民族会議（ANC）の指導者。1990年まで長く獄中生活を送ったが、デクラーク大統領によって釈放され、94年に黒人で初めて南アフリカ共和国の大統領（任 1994～99）となった。

【5】

解答

a 09 b 24 c 22 d 43 e 19 f 08 g 50 h 06
(ア) 44 (イ) 05 (ウ) 34 (エ) 26 (オ) 30

解説

毛沢東の一生を基軸に中国現代史をまとめた問題。その一生で中国共産党の一時期を語れるほど、毛沢東の存在は大きい。現代史、とくに中国となると苦手とする人も多いと思うが、中国現代史はよく出題されるので、抜かりなく学習しておこう。

- a 毛沢東は1893年、湖南省長沙の南方の湘潭県韶山で生まれ、学生時代には長沙で左翼運動に参加した。
- b 1931年、江西省の瑞金に毛沢東を主席とする中華ソヴィエト共和国臨時政府が誕生した。これに対し、蔣介石率いる国民政府軍が攻撃を加えた。1934年10月、陥落寸前の瑞金から毛沢東軍は脱出して長征を開始し、苦難の道りを経て36年10月までに陝西省北部に到達して、37年初めには陝西省の延安を首都とした。延安はその後1949年の中華人民共和国の誕生とともに、首都が北京と定められるまで中国共産党の根拠地となった。
- c 長征途上の貴州省遵義で、1935年1月、遵義会議が開催された。この会議で中国共産党内の指導権はモスクワ留学派から毛沢東に移った。
- d 国民政府軍を率いて共産党を攻撃するよう蔣介石に命じられた東北軍の張学良と西北軍の楊虎城は、1935年8月に中国共産党が発表した八・一宣言の一致抗日の思想に共鳴し、共産党への攻撃を中止した。討共戦を促すために西安にやってきた蔣介石は、内戦停止と一致抗日を主張する張学良と楊虎城の説得を容れなかったため、1936年12月、両者は蔣介石を宿泊地の西安市郊外の華清池で襲い、監禁した。これが西安事件である。しかし、ここで蔣介石を殺せば中国が内戦状態に陥ることは必至であり、行き詰まった張学良らは中国共産党の周恩来に説得を要請した。これを受けた周恩来は西安に赴き、蔣介石を説得して抗日に同意させ、無事に解放させた。この時、蔣介石は国共合作の確約を文書には残さなかったが、翌1937年7月の盧溝橋事件を契機に全面的な日中戦争に突入すると、世論からも国共合作

- を余儀なくされ、ついに同 37 年 9 月第 2 次国共合作に踏み切った。共産党の軍隊である紅軍は、蔣介石の指揮下に入って八路軍と改称され、抗日戦を戦い抜いた。
- e 1926 年 7 月、蔣介石は孫文の遺志を継ぐ形で広州から国民革命軍を北上させ、北伐に出発した。その途上の 1927 年 1 月、蔣介石と意見が対立した汪兆銘ら国民党左派と共産党は武漢に政府を設置した。一方、蔣介石も同年 4 月には浙江財閥の財力を背景に南京に国民政府を樹立した。同年 7 月に武漢政府は内部分裂し、武漢政府の国民党は 9 月に南京政府に合流した。その後も国民党の根拠地は南京であったが、1937 年に日中戦争が始まると、日本軍の攻撃を受けて遷都し、1938 年には重慶に都を置いた。以上より、1945 年 8 月に日本がポツダム宣言を受諾して日中戦争が終了した時点で国民党政府が置かれていたのは、重慶である。
 - f 毛沢東は中華人民共和国が成立した 1949 年に国家主席に就任し、54 年に採択された中華人民共和国憲法で最高権力者は国家主席と規定された。しかし、毛沢東が 1958 年に発動した「大躍進」運動で中国経済が荒廃すると、その責任をとって毛沢東は 1959 年に国家主席を辞任して党主席に専任することとなり、代わりに劉少奇が国家主席の地位に就いた。劉少奇は経済政策の中で資本主義的要素を一部採り入れ、中国経済は復興に向かったが、これによって劉少奇の権威が増幅することを恐れた毛は、プロレタリア文化大革命を発動し、学生を中心に組織した紅衛兵を使って劉少奇を失脚させた（1968）。このため、国家主席の地位は 1968 年から空席となり、75 年に国家主席の地位は廃止された。1982 年に制定された新憲法では国家主席制が復活し、翌年李先念が就任した。その後 1988 年に楊尚昆、93 年に江沢民、2003 年に胡錦濤、2013 年に習近平が就任している。
 - g 林彪はプロレタリア文化大革命の時代に人民解放軍の指導者として毛沢東を支持し、1969 年には毛沢東の後継者に指名されていた人物である。しかし、1971 年、林彪は毛沢東に対する暗殺クーデタに失敗し、空路逃亡する途中のモンゴルで墜落死した。これを林彪事件と呼ぶ。しかし、毛沢東に対する暗殺クーデタ失敗というくだりは、1973 年に周恩来が発表した中国共産党の公式見解であり、その真相は未だに謎に包まれている。その後の中国では、林彪は反革命の裏切り者とされてきたが、近年再評価されるようになった。
 - h 毛沢東が死去すると、その後継者の地位をめぐる華国鋒と毛沢東の側近である四人組が争った。華国鋒は先手を打って 1976 年 10 月に四人組を逮捕し、毛沢東の後継者として文化大革命の終了を宣言した。
- (ア) ヨッフェは第一次世界大戦における対独戦を終結させたプレスト＝リトフスク講和会議のソ連首席代表を務めたのち、ドイツ・オーストリア大使などを歴任した有力外交官であった。彼は 1923 年に中国国民党の指導者であった孫文と会談し、“連ソ・容共・扶助工農”を確認した。これが翌 1924 年の中国国民党一全大会で決定され、第 1 次国共合作が成立した。
- (イ) ソ連留学帰りで都市工作を重視した王明（陳紹禹）や軍事路線を強調した博古（秦邦憲）は、1931 年初頭に中国共産党の指導権を握った。1935 年の八・一宣言は、同 35 年 7 月にモスクワで開催されたコミンテルン第 7 回大会に出席した王明らが、中国共産党と中華ソヴィエト共和国中央政府の名義で発表したものである。
- (ウ) 1950 年 2 月、冷戦の激化と日本の対米従属化・軍国主義復活に備えて、中国とソ連は中ソ友好同盟相互援助条約を結んだ。これはその後の世界情勢の変化に伴い、1978 年に日中平和友好条約が締結されたこともあって、80 年に解消された。

- (エ) 毛沢東は「造反有理」「破旧立新」を掲げて紅衛兵を動員し、反毛沢東派の劉少奇や鄧小平らを資本主義復活をはかる実権派（走資派）と見なして紅衛兵に攻撃させた。
- (オ) プロレタリア文化大革命が続く1976年4月、1月に癌で病死した周恩来を悼んで天安門広場の人民英雄記念碑に花輪を捧げていた民衆を、江青ら四人組が強制解散させるという天安門事件（第1次）が起こった。これは毛体制に対する民衆の反抗でもあった。

【6】

解答

問1 a キ b ス c イ

問2 1 ソ 2 ケ 3 キ 4 ト 5 イ

問3 ウ 問4 エ 問5 エ 問6 ウ

問7 A 朴正熙 B 劉少奇 C 鄧小平 D スカルノ E スハルト

解説

問1 いずれも基本問題である。

問2 1 1960年の4月19日に李承晩政権打倒のために学生が立ち上がった事件が四月革命である（四・一九学生革命とも呼ぶ）。問題文に「その後、一時文民政府が誕生した」とあるが、これは張勉内閣をさす。

2 1979年に朴正熙大統領が暗殺されたことで生じた社会混乱に対し、軍は戒厳令を発し対応した。翌1980年、光州市で戒厳令拡大に反対するデモ隊を軍事力で鎮圧した民主化要求弾圧事件が発生した。これを光州事件と呼ぶ。

3 林彪事件は、毛沢東とともにプロレタリア文化大革命を進めた軍人の林彪が、毛沢東の暗殺を企んだとされる事件である。その後、林彪はソ連への逃亡をはかるが、モンゴルで墜落死した。

4 四人組は毛沢東夫人の江青を中心とするグループで、他の3人は王洪文・張春橋・姚文元である。

5 問題文にあるように、インドネシアのスカルノ政権は軍部と共産党を二本柱としていた。1965年9月30日、共産党員の軍人がクーデタを起こすと、スハルトを中心とする陸軍が鎮圧し、事件の責任をすべて共産党に帰して弾圧した。この一連の事件を通してスハルトが権力を握り、スカルノ政権は事実上崩壊した。

問3 1988年から台湾の中華民国政府の総統の任にあった李登輝は、96年に台湾初の総統直接選挙で第9代総統に就任した。問題文にある「本省人」とは、日本が降伏する1945年8月15日以前から台湾に居住する、福建や広東から台湾へ移住した漢族の子孫をさす語。「外省人」とは日本降伏後に中国本土から台湾へ移住した者とその子孫をさす。

問4 リー＝クアンユー（李光耀）の強い指導力のもとで、シンガポールは急速に経済発展を遂げ、新興工業経済地域（NIE S）の1つに数えられるまでになった。

問5 中国共産党の発した八・一宣言に共感した張学良らが蒋介石を捕えて、国共の内戦停止と、抗日運動の実施を訴えたのが1936年の西安事件である。

問6 1972年の日中共同声明で、日本は中華人民共和国が中国唯一の合法政府であること、台湾は中華人民共和国の領土であることを承認し、中華人民共和国は日本に対する戦争賠償

請求（国家賠償請求）を放棄することを承認した。これにより，日中間の国交は正常化した
が，日本が台湾の中華民国政府と結んでいた日華平和条約は破棄された。

問7 A 朴正熙は1965年に日韓基本条約で日本との国交を正常化した。この取り決めで日
本は韓国を朝鮮半島唯一の合法政権と認め，1910年の日韓併合以前に両国が結んだすべての
の条約・協定は無効とされ，日本から無償3億ドル・有償2億ドルの融資を行うことが決
まった。

B・C 劉少奇は鄧小平とともに，毛沢東の大躍進政策がもたらした混乱の收拾をめざすが，
両者は毛沢東によりプロレタリア文化大革命で失脚させられる。鄧小平はその後も復帰と失
脚を繰り返し，毛沢東死後の1980年代から97年の死去まで最高実力者として力を示し続け
た。1980年代には改革開放経済を進め，経済特区を設置するなど社会主義市場経済の方向
性を決定付けた。

D スカルノはオランダの支配下からのインドネシア独立の中心人物として活躍し，独立後は，
1955年のアジア＝アフリカ会議の主宰や，ナサコム体制による国家運営を行った。

E 問2－5の解説を参照のこと。